平成 30 年度　受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

北設楽花祭保存会（愛知県東栄町、設楽町、豊根村）

地域伝統芸能大賞　保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

比婆荒神神楽保存会（広島県庄原市）

地域伝統芸能大賞　活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

よさこい祭振興会（高知県高知市）

地域伝統芸能大賞　支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

加藤　孝治（愛知県知多市）

地域伝統芸能大賞　地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

相模人形芝居連合会（神奈川県小田原市、平塚市、厚木市、南足柄市）

地域伝統芸能奨励賞

鷲宮中学校郷土芸能部（埼玉県久喜市）

受賞者　プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

北設楽花祭保存会（愛知県東栄町、設楽町、豊根村）

花祭は、昭和 51 年（1976 年）に国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年 11 月から 3 月にかけて北設楽郡（東栄町、設楽町、豊根村）の 15 地区で開催されます。神や精霊の力が弱まる真冬の時期に行われるこの祭りは、大地の精霊の力を呼び起こす再生の意味を持っています。その起源は鎌倉時代と推定され、700 年以上にわたって所願成就、厄難除け、生まれ清まりを祈願する目的で代々親から子、子から孫へと大切に伝承されてきた神人和合の神事芸能です。

平成 23 年度から 25 年度の 3 か年にわたり、県、郡内教育委員会、保存会、名古屋大学で組織された官民学連携の実行委員会により、花祭の保存継承のための記録作成（神事・舞の撮影等）事業が行われるなど、保存会だけでなく様々な団体との協働での活動がなされています。

祭りが地域の生活に根ざしているだけでなく、地域住民と地域外の人々をつなぐ架け橋としての役割も果たしています。

東栄町では花祭がはじまる前の毎年 11 月 3 日に町内の保存会と協働し、花祭のダイジェスト公演を行う「東栄フェスティバル」が開催され、観光資源としての花祭のＰＲだけでなく、伝統芸能の普及公開を積極的に行っています。

地域伝統芸能大賞　保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

比婆荒神神楽保存会（広島県庄原市）

現在、広島県内で唯一国の重要無形民俗文化財の指定を受けている神楽です。中世以来の荒神信仰に基づく神楽で、古い形式をよく留めており、なおかつ地方的特色が顕著で重要なものであることから指定に至りました。広島県の民俗芸能を代表する文化財の一つであるとともに、庄原市東城町（旧比婆郡東城町）の伝統文化とその保存継承・活用を象徴する神楽となっています。

地域にて執り行われる式年神楽（大神楽）、小神楽での公開の他、市内外の各種芸能大会などにも積極的に出演しており、庄原市の伝統文化の広報と観光客誘致に並々ならぬ役割を果たしています。

平成 13 年からは「比婆荒神神楽子ども神楽塾」を開講し、小学生から高校生までの青少年を対象として神楽の実技の伝承および後継者育成に努めています。現在では卒業生が保存会に加入するなど、着実な成果を挙げています。また、単に後継者育成や、施設訪問や地域のイベントにも参加しており、神楽を活かした人づくりと地域活性化にも貢献を果たしています。

地域伝統芸能大賞　活用賞（第２類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

よさこい祭振興会（高知県高知市）

よさこい祭りは毎年８月９日（前夜祭）、10 日、11 日（本番２日）、12 日（後夜祭・全国大会）の４日間、高知市内で開催される高知を代表する祭りです。市内９カ所の競演場・７カ所の演舞場で約 200 チーム、約 18，000 人の鳴子を持った踊り子が工夫を凝らし、地方車には華やかな飾り付けをして市内を乱舞します。

この祭りは戦後の不況を吹き飛ばし、市民の健康と繁栄を祈願し、併せて夏枯れの商店街振興を促すことを目的に昭和 29 年８月、高知商工会議所が中心となり発足しました。高知のよさこい祭りはその自由性から、北海道札幌市の「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭り」を始め、各地域の郷土色を打ち出した「よさこい祭り」として今や北は北海道、南は沖縄まで全国各地 200ヵ所以上の地で開催され定着しています。

例年 100～120 万人の観光客を集客し、高知市において最重要観光資源であると言えます。

地域伝統芸能大賞　支援賞（第３類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

加藤（かとう）　孝治（こうじ）（愛知県知多市）

朝倉の梯子獅子は、慶長４年から約 420 年間伝承されている民俗芸能です。

梯子獅子は動きが非常に激しく、また高さ９メートルの櫓の上での演技のため、獅子頭は軽くて丈夫でなければなりません。そこで、軽い「さわら」の木を使用し、一つの木材から１個の獅子頭を彫る「丸彫り」ではなく、木材を膠で貼り合せて彫る「名古屋彫り」という技法を用います。これにより丸彫りに比べ 10 分の１の重さで仕上げることが出来ます。こうした独自の技法を伝承し、獅子頭の制作や修理に携わる活動により、朝倉の梯子獅子は支えられています。

加藤氏はこの名古屋彫りの手法を数年間かけて習得し、獅子頭の制作・修復に取り組まれてきました。こうした活動は地域の観光振興を支える重要な取り組みであり、地域で愛されている朝倉の梯子獅子の継承に、大きな貢献を与えています。

地域伝統芸能大賞　地域振興賞（第４類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

相模人形芝居連合会（神奈川県小田原市、平塚市、厚木市、南足柄市）

相模人形芝居は旧相模国、今の神奈川県で伝承された人形浄瑠璃で、特徴は文楽と同様、一体の人形を主遣い、左遣い、足遣いの三人が協力して息を合わせて操る「三人遣い」と、人形のカシラを操作するときにまるで鉄砲を構えたような格好になる「鉄砲差し」と呼ばれる独特の操法にあります。

以前は 15ヶ所ありましたが、現在は長谷座・林座（厚木市）、下中座（小田原市）、前鳥座（平塚市）、足柄座（南足柄市）の五座が伝承を伝えています。文楽とは違う特色をもち、貴重な価値を有した五座をまとめ毎年持ち回りの会場を得て定期公演を行い、昭和 55 年に五座の内三座（林座・長谷座・下中座）が、国の重要無形民俗文化財に、昭和 57 年に二座（先鳥座・足柄座）が神奈川県無形民俗文化財に指定されました。貴重な伝統芸能を継承するため、昭和 46 年という早い時期に連合会を設立し、所在自治体の協力を取り付け、積極的に活動を続けています。また、若い後継者育成の為、地域の中学校や高等学校には、相模人形クラブが作られ、生徒たちの関心も高くなっています。

地域伝統芸能奨励賞

鷲宮中学校郷土芸能部（埼玉県久喜市）

昭和 55 年当時郷土芸能クラブ設立から 37 年間にわたり、週１回の部活動として鷲宮催馬楽神楽の修得を行っています。

卒業生の中から同保存会に加入して神楽を続ける方もいます。修得した鷲宮催馬楽神楽を毎年文化祭や久喜市鷲宮地区文化祭等で披露し、平成 24 年には「全国子ども神楽サミットｉｎ島根」に出場するなど各地のイベント等にも出張しています。鷲宮催馬楽神楽の存続のため、鷲宮中学校郷土芸能部の部活動が継続され、鷲宮催馬楽神楽の伝統が継承されることが期待されています。